



NEWS
Fukuoka Foreign
Trade Association

福岡貿易会 会員広報誌
発行・編集／社団法人 福岡貿易会
〒812-8505福岡市博多区博多駅前2-9-28
福岡商工会議所ビル7階
TEL.092-452-0707 FAX.092-452-0700
E-mail: info@fukuoka-fta.or.jp

vol.3

福岡貿易会会員広報誌



「税関 その役割」 高橋門司税関長にインタビュー!

CONTENTS

【インタビュー】門司税関長と福岡貿易会会長との対談	1～2P
【体験談】「香港を訪れる時には…」	3P
【報告】第51回福貿会ゴルフコンペ・韓国貿易センター(福岡)との懇談会	4P
【セミナー報告】インド講演会・中国語研修会など	5～6P
【開催予定セミナー・行事】	6P
【会員メッセージ】	裏表紙

【表紙の横顔】 門司税関長 高橋税関長／福岡貿易会 並田会長

門司税関長 対談

並田会長(以下、会長)

まず、管内の主要産業など、最近の動向を説明していただけだと思います。

高橋門司税関長(以下、税関長)

門司税関管内(山口県、福岡県・佐賀県(有明海に面する地域を除く)、大分県、宮崎県、長崎県の壱岐・対馬)というのは、地域的には、東南アジアと非常に近いということです。貿易では中国、韓国を合わせた比率が大体30%を超え大きい。それから、輸出品を見てみますと、自動車や半導体のシェアが非常に高い。貿易はどちらかというと、全国に比べてやはり加工型貿易となっています。つまり、原材料を入れ製品を出していくという形で、製品輸入比率というのが全国に比べ低い状況です。私も今年の7月に参りましたが、北九州地域のトヨタをはじめ日産ですとか色んな工場を見て参りました。まさに自動車は、北部九州が年間150万台を目指していますが、非常に好況だという感じがいたします。工場を見ますと、びっくりしましたけど、色んな部品を全部取り付けるわけですよ。それで、昔はエンジンが心臓部だったのですが、最近は、どちらかというと、エレクトロニクスの様ですね、シリコンアイランドとの関係もありまして、自動車産業は非常に裾野が広い産業ですから、雇用創出効果も大きいと思います。先程も話しましたが地理的な面も、まさに東アジアと一衣帯水の関係でありますから、アジアの玄関口として、今後とも色んな形で発展していくと思っています。

会長

次に、税関のお仕事の一つになりますけど、税関を取り巻く環境も色々変化しているようで、特に9.11のテロその他、昨今の社会を害する物品の密輸も増加しているようで、この面でも国民の安全を守るということで、随分ご尽力頂いていると思いますが、その辺のお話をお聞かせ下さい。

税関長

特に、今は第三次覚せい剤濫用期といわれており、不正薬物が色んなところから入ってきています。それから最近、偽物のバックですとか偽物の時計ですとか、知的財産侵害物品も多く、また、特許権を侵害するようなケースも随分増えています。このように取締の対象も増えてきています。さらに9.11以降では、テロ関係で、世界的にも各国が一丸となって対応しなくてはならないと強く言われていますが、アメリカを中心に、対応が随分と進んできて「24時間ルール」というのがあります。「24時間ルール」は、アメリカ向けに船積みされるようなものは、日本から船積み前、24時間前にマニフェストという積荷目録をアメリカの税関に出しなさいという、そういうものですか、コンテナは今、博多港での取扱量は大体年間70万TEUですが、その中のアメリカ向けのものは、



高橋 門司 税関長

色んな情報を提供しなければいけないという規制の強化、セキュリティの強化というのを求められています。また、国内的にも港毎に公安管理者を中心に、危機管理体制ができています。この門司港や博多港にも危機管理官体制があり、海上保安庁とか、税関とかみんな一体的にテロが起こった時にどう対応しようかとシミュレーションをやって、色んな形で対応を進めています。そういう形でセキュリティの強化が進んできており、私共も色んな形で、テロ関連物資も含めて、水際で如何に効果的に阻止するか、国際的にも国内的にも期待をされています。一方で国際物流は、貿易量にしても、過去10年で大体2倍位になっており、どんどん増える物流を円滑に処理していかなければならない。このように、セキュリティの強化と物流の円滑化という相反するものを、いかに調整するかという問題が一番の課題ですね。

その中で一番大切なことは、なるべくいい輸入者とか輸出者、コンプライアンスのいい方は、通関をなるべく早くして、私共はそういう社会悪ですとか、そっちの悪いものを摘発していくという考え方を持っています。

国際的に見ても、今そういう方向で対応が進んでいます。例えば、AEO (authorized economic operator) 制度があります。これは、コンプライアンスのいい業者に対してはなるべく、通関上のベネフィットを与え、なるべく簡単に、簡易な手続きをとってやるという、そういう方向で物流の円滑化を図る、一方セキュリティの方はなるべく厳しくやる。そういう両側面をやはりwin-winシチュエーションで両方とも達成出来るような形で我々対応していかなければいけない。そうしないと物流がストップしますし、みなさんも国際物流では、リードタイムの短縮とか、ジャスト・イン・タイムとか、分刻みで動いておりますから、その辺のところは、なるべくいい業者にはなるべく簡素化をして物流の円滑を図っていくことが我々の一つの大きな使命だと思っています。

会長

そうですね。そういう二律背反するものを、両方ともきちんとしてやろうと思えば、やっぱりそういうお考えが大切ですね。我々会員さんも含めてコンプライアンスの優れた企業さんも多いので、そういう業務を信頼してまかせて頂くというケース、これから増えていくと思いますが、それだけに我々の方もその期待に応えるべくより適正に行く。そういう心構えがこれから一層重要になってくるのだと思っています。より効率的な輸出入業務のために、我々も協力させて頂きたいので、よろしくご指導いただきたいと思っています。

税関長

それから、今、国の方ではアジアゲートウェイ構想というのがあります。アジアゲートウェイ構想というのは、これから21世紀はアジアの世界とこう言われておりますが、日本はアジアの中で生きていく、つまりアジアのメンバーと共に生きて共に創るという、共生、共創というのでしょうか、そういう概念で、お互いに対等なパートナーシップでやっていこうというものです。その中で税関も、先程のコンプライアンスの話みたいに、なるべく手続きも簡素化をしようと、そういう形で今ものごとを動かさせていただいて、今後一年位の関係で、色々な物事はだいぶ変わってきますが、是非、私共も政策や行政について、なるべくその透明化を図るため、私共もエキスパートがいっぱいいますから、皆さんとの意思疎通を図っていくというのが、非常に大事になっていくと感じています。

会長

我々の会員さんも、そういう面では、税関さんのお考えなどをもう少し知りたいという希望の方多いと思います。できるだけ当会員にもそういう機会を作って、会員さんとの相互コミュニケーションも含め、より深く出来るように頑張りたいと思っています。

税関長

有難うございます。私共からも一つPRですが、明治5年(1872年)11月28日に運上所が「税関」と改められ、税関として正式に発足しております。税関では、この11月28日を「税関記念日」として、全国各地の税関で様々なイベントを開催しています。門司税関では、11月24日から11月28日まで、門司港レトロ地区内の旧門司税関におきまして税関展を開催します。税関の歴史等を紹介したパネルなどを展示する予定ですので、ぜひご覧下さい。それからもう一つお願いですが、私共は色々な形で薬物ですとか、不正商品、知的財産侵害物品ですとか、これだけ物流が拡大するなか、私共も少ない人員の中で、最大限努力しています。水際でなるべくそういう不正な物を、ストップしようという形で頑張っていますので、やはり官民一体で協力してやらないと、なかなか出来るものじゃないですから、何かありましたら、情報というのは、なかなか難しいかも知れませんが、是非ご協力をお願いしたいと思います。

会長

本当に税関の役割は、今後ますます重要となってくると思います。先程、通関の適正な手続と迅速化についてお話ししましたが、我々、利用者の立場から利便性の向上についてもう少しお話し下さい。

税関長

特に貨物ということで、コンテナ取扱量は博多港で年間約70万TEUです。これを全部チェックするのはなかなか難しい状況ですが、大型X線検査装置を導入しまして、これは非常に大きな施設ですが、今まで全部チェックをすると2時間位かかったのが、X線画像の分析も含めて、せいぜい10分か20分位でチェックが終わりになります。こういう形で物流の迅速化を図らせて頂いています。



並田 会長

それから、RORO船というのがあります。RORO船はクレーンを使わないで、コンテナを積んだトラックが、直接入ってくるので、非常に時間が短縮できます。こういう物流が結構盛んになってきていますね。大手の電器会社や半導体の関係の会社などが、今、博多から上海までSSE(上海スーパーエクスプレス)を利用しているようです。こういう船を利用していると、税関も、24時間365日という形で、船も土曜日に入ってきたり、それから時間が我々の勤務時間外、例えば、早朝や夜間に入ってきたりしています。そういうのも税関は、下関や田野浦とか、福岡では、博多や福岡空港が24時間365日で我々が対応しており、物流の円滑化に努めています。

会長

今はRORO船とか、非常にそういう効率のいい輸送形態が出来てきていますね。税関さんが非常にスムーズな通関をして頂いていますから、飛行機とそんなに遜色ないような感じになってきています。

我々会員の中にも優良な物流業者さんがたくさんおられますので、そういう意味では、税関さんといろいろ協力させていただきながら物流の円滑化、貿易の振興に取り組んで参りたいと思います。

本日は、お忙しい中、本当にありがとうございました。



「税関旗」は、明治25年にできた旗で、青色が空と海を表し、白色が陸地を表し、その接点にある日の丸が税関を表している。

「香港を訪れる時には…」

香港では、電車やバスなどの公共交通機関を利用していると、若い人がお年寄りに席を譲る光景をよく目にする。猛スピードで街中を疾走するバスの運転手は、乗客が座る前に合図もなしに発車するし、急ブレーキもお構いなしだが、お年寄りが乗車した時は、席に座るまで辛抱強く待っている。特に二階まで上がるお年寄りがいれば、運転席からは見にくいと思われる二階の様子をルームミラーで一生懸命に探っている（香港の路線バスは、イギリスと同型の二階建バスの割合が非常に多い）。

ところが、街中ですれ違う香港の人々は実に忙しい。エスカレーターのスピードは非常に速く設定され、エスカレーターに乗る際には常に右側を空けておくのがマナーとなっている。急ピッチで高層ビルの中を上昇するエレベーターに乗れば、人々は一様に「閉」のボタンを慌しく押し続ける。地下鉄では、降りる人が途切れないうちに乗る人が車内に押し寄せる。

優しい一面と競争が激しく厳しい一面。香港には、また、香港の人々には、大きなギャップがある。それは、風景にも現れている。香港の代表的風景としてガイドブックに載っている高層ビルの建ち並ぶセントラル地区や九龍地区などがある一方、アジアの亜熱帯地方に在るのだと改めて実感させられる香港島南部や多くの自然が残る新界（ニューテリトリー）地区がある。ビジネス街で忙しく働く人々は、休日には、浜辺でのバーベキューや、イギリス統治下でポピュラーとなった山歩きを楽しむ。オンとオフとを明確に区別しなければ、ストレスが多く競争の激しい香港の社会では生き延びることができないのではないかと考えてしまう。

「競争の激しい香港」というイメージは、香港政府が自由放任主義（レッセフェール）を貫いている事から生じている香港の大きな特色となっており、それは中国に返還された現在も大きく変わっていない。

政府は、民間でやれる事は民間に任せている。その代表的な例として、香港ドル紙幣の発行スキームが挙げられる。香港に発券銀行としての中央銀行が存在しないことは、あまり知られていない。香港ドル紙幣（10ドル紙幣を除く）は、3つの民間銀行によって発行されている。香港上海銀行、中国銀行、およびスタンダード・チャータード銀行が、それぞれ独自のデザインで紙幣（20ドル、50ドル、100ドル、500ドル、1000ドル）を発行している。また、偽造防止のために各紙幣が銀行毎に定期的リニューアルされるので、香港で流通している紙幣の種類は実に多彩なものになっている。香港では、日常的に6~9種類の同額紙幣が流通している。



セントラル

西日本シティ銀行 国際営業室 古庄靖夫（前 香港事務所長）



スタンレー

民間銀行が発行している香港ドル紙幣の信用力は、一体どのようにして担保されているか疑問をいだく人は多いかも知れない。民間銀行3行は、香港金融管理局の為替基金に米ドルを預託し、これと引き換えに交付される証書を基に紙幣を発行しており、発券銀行として定められた交換レートで自らが発券した香港ドル紙幣を米ドルに交換する義務が求められている。このようにして、香港ドルの信用は保たれている。

香港では、10香港ドルだけは、紙幣と硬貨が併用されている。10香港ドル紙幣は、硬貨（1、2、5、10香港ドル）と同様に香港政府により発行されているが、これには、中国に返還された後、香港経済が一時的に大きく疲弊した事に起因している。

香港では、旧正月に多くの人に少額のお年玉（広東語で礼是と書く）を配る習慣がある。日頃お世話になっているマンションの警備員やレストランのスタッフなどを対象として、20香港ドル紙幣（約300円）を礼是袋に入れて渡すのが一般的だったが、経済が低迷し、不動産価格も大幅下落した時期に礼是の相場下落も進んだようで、「礼是袋に10香港ドル硬貨を入れて渡すのは格好が悪いので、10香港ドル紙幣を復活して欲しい」との市民の要望が多く、これに応える形で香港政府が発行に踏み切ったとされる説が大勢を占めている。

その他にも、10香港ドル硬貨の精巧な偽物が数多く出回っており、その対策として10香港ドル紙幣が再び発行されるようになったという説もあるが、紙幣登場後も硬貨が相変わらず流通している現実があり、この偽硬貨対策説は説得力に乏しい気がする。

香港を訪れる機会があれば、街中やバスの中で香港の人々の様子を見てもらいたい。そこには、お年寄りに優しく接する人々を見つけることができる。両替の時やショッピングの時に紙幣をじっくりと見てもらいたい。そこには、必ずその紙幣を発行した民間銀行の名前が入っている。また、滞在中に何種類もの20香港ドル紙幣に出会うことができる。そして、もう一つ、香港島の南側まで足を運んでもらいたい。そこには、よく知られている摩天楼がそびえ立つ香港とは、全く別の風景が広がっている。



レパルスベイ

第51回福貿会ゴルフコンペ

報告

日 時:平成19年9月27日(木)8:33スタート

場 所:福岡カンツリー倶楽部

秋晴れに恵まれ絶好のゴルフ日和のなか、35名(9組)にご参加いただき、会員相互の親睦を深めることができました。

[当会ゴルフコンペは、年2回(春、秋)に開催していますので、皆様の参加をお待ちしています]



並田会長より優勝杯を受ける畀田氏(右)



韓国貿易センター(福岡)との懇談会

報告

日 時:平成19年10月4日(木)18:30~21:00

場 所:精水(福岡市中央区春吉)

本年度より、交流懇談事業の一環として外国公館等との交流会を開催しており、タイ国政府貿易センター福岡、台湾貿易センターに引き続き、韓国貿易センターとの懇談会を開催いたしました。参加者は、韓国貿易センター3名、当会会員15名で、まず、韓定鉉館長より韓国の最新事情等のブリーフィングをいただき、次に意見交換を行い、和やかな雰囲気の中交流を深めることができました。

[次回は、カナダ政府通商事務所との懇談会を計画していますので、皆様のご参加をお待ちしています。]



「セミナー報告」

○インド講演会

<日 時> 平成19年9月13日(木) 15:30~17:30
 <ところ> 勲九州経済調査協会6F 大会議室
 ※九州経済産業局との共催

第1部「インドの物流事情」では、三井住友海上火災保険株式会社海損部物流安全サービスグループ課長代理の上田誠氏にインド主要地域の港湾および道路輸送の実態と物流リスクについて、また第2部「日印戦略パートナーシップ」では、シンクタンク山崎養世事務所代表の山崎養世氏に、金融と経済で切り開くアジア新時代という副題でインドの最新事情をご講演頂きました。

○中国語研修会

<日 時> 平成19年10月1日~12月17日(毎週月曜日 19:00~20:15)
 <ところ> 西日本ビル10F 会議室
 ※社団法人博多港振興協会との共催

ピン音学習経験者を対象に簡単でしかも仕事に役立つ中国語会話講座を全12回で開催中です。現在20名弱の皆様がそれぞれのレベルの差こそあれ、力を合わせて奮闘中です。

参加者のことばより

- * 簡単な文章から応用できる使い方を教えて頂ける方法にとっても満足しています。
- * 参加者のレベルが幅広く互いに助け合いながら上達していけるようになりたいです。
- * 非常に適切な説明で、今まで分からなかったところまで理解できるので今後も楽しみです。
- * 非常に難しい。応用文が多すぎて分からない。(でも頑張って毎回お越しです=事務局=)

○アラブ首長国連邦(UAE)経済事情講演会 ~ドバイの最新ビジネス事情~

<日 時> 平成19年10月11日(木) 13:30~15:30
 <ところ> 福岡商工会議所2F 第2・3研修室
 ※日本貿易振興機構(JETRO)福岡貿易情報センターとの共催

日本貿易振興機構貿易投資相談センター貿易投資相談課主査の兒玉高太郎氏を講師にお迎えし、中近東全般の基礎情報からドバイビジネスの最新事情までをご講演頂きました。

9月の博多港輸出額は18ヵ月連続で前年度実績を上回り、その要因の1つとして、アラブ首長国連邦への輸出増が挙げられるなか、11月18日に出発を控えた福岡貿易会ドバイ経済視察団の事前研究としてもタイムリーな講演会であったとご好評を頂きました。

参加者のことばより

- * UAEについて理解をより深められた。現地のダイナミズムを予感できて、ドバイ経済視察団(福岡貿易会主催)参加を楽しみにしている。
- * 殆ど知らなかったドバイの概要、成長力を知ることが出来た。
- * 詳細に全般の話が聞け、大変参考になりました。豊富なデータが有り難かった。

○「外航貨物海上保険セミナー」&「貿易保険セミナー」

<日 時> 平成19年10月25日(木)
 第1部「外航貨物海上保険セミナー」13:00~15:30
 第2部「貿易保険セミナー」 16:00~17:00
 <ところ> 福岡商工会議所2F 第2研修室

毎年ご好評を頂いております輸出入実務ご担当者向け「外航貨物海上保険セミナー」では三井住友海上火災保険株式会社福岡法人部貨物課長の松沢孝仁氏を、また初の試みとなる輸出販売代金回収等のリスク管理に関わる皆様へ向けた「貿易保険セミナー」では、伊藤忠商事株式会社第一保険部海外・貿易保険室担当部長の吉川仁氏を講師にお迎えし、2部に分けて開催致しました。

参加者のことばより

- 「外航貨物海上保険セミナー」
- * あまり詳しく分からないまま実務を行っていたが、色々教えてもらいよく分かった。
- * 丁寧に質問に答えて頂き、保険期間やリスクなど不明確だったことが理解できた。
- 「貿易保険セミナー」
- * 売掛金回収のリスク、新規取引の信用調査の重要性など役に立ちました。
- * 民間企業のニーズにあった有意義な商品であると考えます。

「セミナー報告」

○輸出入金融セミナー

<日 時> 平成19年11月6・13日(木) 13:30~16:30

<ところ> 福岡商工会議所2F 第2研修室

福岡貿易会アドバイザーの木村寧海氏が、長年の銀行国際業務のご経験から、輸出入取引には欠かせない外国為替や貿易金融を全2回で実務面から分かり易くご講義下さいました。

参加者のことばより

- * 貿易業務に従事しているが、いまさら聞けない不明な点がクリアになりました。
- * L/Cの取引内容を詳しく理解することが出来た。
- * 資料やお話も大変理解しやすく、とても勉強になりました。
- * 普段業務を行う上であまり意識していないマネーフローの事を学ぶことが出来、大変になる内容でした。

今後開催予定

セミナー

◎フォローアップセミナー

日時:平成19年12月4日(火) 14:00~16:00

会場:福岡商工会議所2F 第2研修室

◎食品輸入セミナー

日時:平成20年1月17日(木) 14:00~17:00

会場:福岡商工会議所 会議室

◎税関セミナー

日時:平成20年3月中旬予定

会場:福岡商工会議所 会議室

行 事

☆会員交流会

日時:平成19年12月5日(水)

第1部 福岡市長による講演 17:00~

第2部 懇談会 17:40~

会場:西鉄グランドホテル

☆平成19年度 第4回常任理事会

日時:平成20年1月29日(火) 11:00~12:00

会場:福岡商工会議所 会議室

☆平成19年度 第2回理事会

日時:平成20年3月下旬予定

会場:福岡商工会議所 会議室

編集後記 / 事務局長 野 忠雄

今回は、何とか早く出すことが出来ましたが、2ヶ月でとなるとやはり厳しいです。沢山の皆様にご無理をお願いしまして何とかでした。来年は福岡貿易会(前身を含めて)設立50周年を迎えることとなります。やはり一つの大きな節目でもあることから、今年度当初から頭を絞ってはいるものの、定番的なものしか思い至らず、今日に至っております。皆様の中でこんなことをしたらどうかなど、お金がかからずみんなが参加しやすくしかも有意義なもの、の良い案がありましたら事務局に知恵を授けて下さい。いずれにしても、会員皆様のご協力無くしては出来ませんので、このこと頭の片隅においていただき「あっ」と思いつかれたら是非ご一報をお願いします。次は正月号を予定しております。何かとご迷惑をおかけするかと思いますが、よろしくをお願いします。

発行・編集/ 社団法人 福岡貿易会
デザイン・印刷/ 西日本高速印刷(株)



福岡貿易会新事務所 8月1日移転
(新住所) 〒812-8505
福岡市博多区博多駅前2丁目9番28号
福岡商工会議所ビル7F
TEL:(092)452-0707 FAX:(092)452-0700
E-MAIL:info@fukuoka-fta.or.jp
ホームページ http://www.fukuoka-fta.or.jp/